『史苑』投稿規定

I 執筆資格その他

一 投稿は会員に限ります。

二 原則として和文による原稿は、未発表のものに限ります。

II 原稿の種類と枚数

一 原稿の種類は「論文」「研究ノート」「書評」「史料紹介」「学界動向」「調査報告」「新刊紹介」「資料と通信」「近況、エッセイ」の九種です。投稿者は掲載を希望する種別を明記のうえ投稿してください。ただし種別の最終的な判断は、編集委員が行います。

二 「論文」に分類されるのは、新解釈の論証、新発見の報告、新資料の研究・刊行などを内容とし、独自の学問的貢献の認められるものです。新解釈を提案していても十分な論証を伴わないものや、新しい発見や史料・資料等の予備的・暫時的な報告は「研究ノート」扱いになります。

三 原稿の枚数は四〇〇字詰め換算で、「論文」は六〇枚程度、「研究ノート」は三〇枚程度、「書評」「学界動向」は一五枚程度、「史料紹介」「調査報告」は一〇

枚程度、「新刊紹介」は五枚程度、「資料と通信」は一〇枚程度、「近況、エッセイ」は二枚〜六枚とします。投稿の際には、原稿の枚数を四〇〇字詰め換算で明記してください。

四 上の制限枚数には注・文献、図版等を含めるものとします。

五 図版類には、表題、通し番号を付し、出典のある場合には必ずその旨を明記して下さい。特殊製版の場合、その費用は、執筆者の負担となります。

六 図版類の掲載に必要な、資料や版権を所有する個人や機関の許可は、執筆者の責任で前もって必ず取得しておいて下さい。

七 原稿は、投稿時には打ち出し原稿（一部）をお送りいただくか、WORD（ワード）か「太郎」等のワープロソフトで作成された原稿データを sien.rikkyo@gmail.com までメールでお送りください。また、CD・DVD、USBメモリーなどの保存媒体を郵便で送付していただくことも可能ですが、その場合、保存媒体をお返しすることはできません。なお、フロッピーディスク及び手書き原稿はご遠慮ください。

八 図表・写真を本文中に挿入している場合であっても、本文とは別に、元のデータもあわせてお送りください。

写真（紙焼き）・図（コピー）の場合は現物をお送りください。

九 投稿していただいたご原稿は、編集委員会とレフエリーによる審査のうえ、採否ならびに掲載の時期を決定して、執筆者に通知します。なお、不採用の場合でも、原稿はお返しできません。また、審査の結果についての問い合わせはご遠慮ください。掲載決定時にはご原稿の書き直しをお願いすることがございます。

III 必要添付書類

原稿の冒頭には、必ず以下の事項を明記した別紙を添付して下さい。なお、この部分は原稿の枚数には含めません。

一 執筆者の氏名（ローマ字表記を添える）。

二 論文・ノート等の題名（必ず英文題名を添える）。

三 所属機関名と身分／役職。所属機関のない方は「本学会会員」とお書き下さい。

四 英文サマリー（三五〇語以内、「論文」以外は不要。ネイティブ・チェックを受けたか否かを明記して下さい）。

五 連絡先（連絡を取ることができる住所・電話・ファックス番号・emailアドレス）。執筆者が複数の場合には、校正などの責任者（一名）の氏名にアンダーラインを

付してください。留学等で住所変更が見込まれる方は、新しい連絡先もお書き下さい。

IV 原稿の体裁

一 原稿は、縦書きとします。

二 歴史的名辞や術語、および引用文などを除いて、常用漢字と新仮名遣いを用いて執筆して下さい。

三 外国語の固有名詞や術語などは原則として片仮名で表記し、初出時にのみローマ字表記を添えて下さい。地図中の地名も原則として片仮名で表記して下さい。

四 数字の書き方は、左記の例示に従ってください。（引用除く）

〔例〕年代…一九四五年、明治三八（一九〇五）年

用 不用 用 不用

一〇 十 九二七五 九千二百七十五

三四 三十四 八万二〇〇〇 八万二千

六〇〇 六百 一二億四三〇〇万 十二億四千三百

五 章節の見出し番号は、編集委員で統一することがあります。

V 文献の引用

一 引用文献の表記法は、原稿内の統一に充分注意のう

『史苑』投稿規定

え、投稿規定の後に掲げる書式に従って下さい。規定の書式に従っていない原稿については、返送のうえ、手直しをお願いします。

二 外国語文献の書名と雑誌名をイタリック体で表示できない場合には、アンダーラインを付して下さい。

三 雑誌名、史料名などを略号で挙げる場合は、略号表を付すか、略号使用にあたって準拠した文献名を明記して下さい。

四 上掲書、上掲論文、*op. cit.*, *art. cit.* などの略称／略号は、読者の混乱をきたさない場合にのみ使用して下さい。

VI 校正

一 執筆者の校正は、原則として二校限りとします。校正にあたっては、事務局よりお送りするガイドラインに従って下さい。

二 校正時における加筆・削除・訂正は、ほぼ同一字数内での差し替えを原則とし、数行にわたる組み替えを必要とするものは認められません。

三 数行にわたる組み替えを必要とするものについては、掲載をお断りすることがあります。

四 校正返却の期限を厳守して下さい。

VII 抜き刷り

一 「論文」の執筆者には、掲載誌一部と抜き刷り五〇部をさしあげます。「研究ノート」「書評」その他の執筆者には、掲載誌一部をさしあげます。

二 抜き刷りの追加をご希望の際は、追加部数（有料）をあらかじめ編集委員会までご連絡下さい。

VIII 締め切り日

原則として毎巻第一号は七月下旬、第二号は一月に原稿の募集を締め切ります。ただし、原稿が揃い次第締め切つて編集作業に入りますので、できるだけ早めにご提出下さい。

IX 著作権

掲載論文などの著作権は、立教大学史学会に属します。

X その他

その他不明の点は、ご遠慮なく学会事務局または編集委員会にお問い合わせ下さい。

「注・文献」の付け方

注や文献の書式は、以下のA、Bいずれかの形式によるものとします。

A形式

注は、文献注か説明注かを問わず、全て一括して論文もしくは研究ノートの末尾に付します。

注で典拠を示す際は、次の通りです。

① 著書の場合(例の(1) (4))

著者名〔訳者名〕『書名』(出版社名、発行年)、引用頁。

② 所収論文の場合(例の(2))

著者名〔訳者名〕、「論文名」、編者もしくは共著者名『書名』(出版社名、発行年) 所収、引用頁。

③ 雑誌論文の場合(例の(3))

著者名、「訳者名」、「論文名」、「雑誌名」巻数や号数、発行年、引用頁。

④ 史料の場合

原則として史料情報は、他の研究者が注の情報から核当史料を確認できるようにすることが肝要ですが、非公開の史料もありますので、所蔵者の方針に従って下さい。仮題を付す場合は()内に記して下さい。使用史料が史料群の一部の場合は、所収されている史料名を付して下さい。所蔵者が個人の場合は、敬称として「氏」を使用して下さい。

史苑(第七三卷第二号)

い。

(a) 原史料の場合(例の(9) (10))

「史料名」、所蔵者、史料巻号。

(b) 複製史料(マイクロフィルム、写真帳など)の場合(例の(11))

「史料名」、所蔵者、複製形態、「複製史料名」、(原蔵者)、所収史料巻号。

(c) 刊行史料(史料集成、自治体史などに所収)(例の(12))

「史料名(所蔵者または所収史料群名)」、「所収書肆名」、(編集者、出版者名、所収書肆発行年)、掲載頁。

(なお、西洋史、東洋史、地理、文化人類学の場合は、それぞれの専攻分野の書式に従って、史料の典拠を示して下さい。)

(A形式の注の例)

(1) 青山康一『イギリス議会史―その伝統と革新』(山本出版、一九九三年)三四頁を参照。

(2) 鈴木国和「トルコの軍政」森雅一編『中央アジア』(山本出版、一九八九年)所収、五六頁。なお、青山前掲書(注

1) 一六頁にも……について、言及がある。

※ 「前掲書」とか「前掲論文」と記入する場合は、右のように、それが前に出てきた注の番号を(注1)というように入れて下さい。

『史苑』投稿規定

- (3) 上野泰「近世史料の扱い方」『史観』八二巻二号、一九九一年、二―二五頁。
 - (4) ゲルダ・マイナー「奥山暁子訳」『男性支配の起源』(三和書房、一九九五年)一五二頁。
 - (5) Gerda Meiner, *The Creation of Patriarchy*, Oxford, Oxford Univ. press, 1990, pp.1-10.
- ※出版地を入れたい場合は、書名または雑誌名と、出版社名の間に入れてください。
- (9) Hiromi Uehara, "Peasant society in Philippines", in A. B. Car and D. E. Farn (eds.), *Rural Development in Asia*, Sita Publications, 1999, pp.49-50.
- ※ pp. の表記はドイツ語、ロシア語、ギリシア語等の専門分野別に固有の表記を使用しても結構です。
- ※ファミリーネーム(姓)とファーストネーム(名)の表記の順序は、それぞれ民族、国民、地域などに固有の順序を尊重します。
- ※論文名などを示す括弧は「」のほか「《》」など、専門分野に固有の括弧表記を使用しても結構です。
- (7) Ghosh Anand, "Folk Rituals in Bengal" *J. of S. E. Asian Studies*, LXII-2, 1979, pp.1-10.
- (8) *Ibid.* and LERNER, *op.cit.* (note 5), p.125.
- ※欧文で *op.cit.* を使用した場合、それが前に出てくる注

の番号を右のように (note 5) と入れてください。

- (9) 「神国泰平鏡」、横浜歴史史資料館所蔵、B六三―一〇―二。
 - (10) 「安政日記」、個人蔵。非公開。
 - (11) 「西山寺聞書」東都大学史料編纂所所蔵マイクロフィルム「西山寺文書」(原蔵西山寺)所収。
- ※複製史料所蔵者と史料原蔵者が異なる場合は、原蔵者も示して下さい。
- (12) 寛永一五(一六三八)年「かづさじゅわん廻状」(岡山藩聞書)『原史料で綴る島原の乱』(鶴澤倉吉編、山本出版、二一九四年)一一頁。

B形式

文献注は全て本文中に「」で挿入し、説明注は本文末尾に一括していれ、最後に引用文献リストを付け加えます。

◎本文中に「」で文献注や典拠を挿入する場合、順序は次の通りです。

(著者姓、発行年、引用頁)

※同一著者名で発行年が同じ文献が複数ある場合には、a. bで区別して下さい。

〔文中に挿入される文献注の例〕

…とされている「上原 一九九一 a、一一一〇頁」。

…とされている [Meiner 1990, pp.1-10]。

※ pp. の表記はドイツ語、ロシア語、ギリシア語等の専門分野に固有の表記を使用しても結構です。

※なお本文中に史料名を典拠として () で示す場合には、() 内に史料名、所蔵者、引用頁を記し、本文、説明中の最後の最後尾におかれる引用文献リストに史料データを A 形式の「史料の場合」を参考にして、加えて下さい。

◎説明注は、当該箇所右脇に小さく通し番号 (1) … などとつけて、すべて本文末尾に入れてください。

〔本文末尾に入れる説明注の例〕

(1) …

(2) …

(3) …

◎引用文献リストは、本文と説明注のあと、最後尾に付け加えてください。文献リストの配列は、著者の姓を先にし、邦語文献、中国語、朝鮮語、韓国語文献の場合は五〇音順、その他の外国語文献の場合にはアルファベット順、アラビア語やアジア・アフリカ等の民族的言語の文献につ

いては、それぞれに固有の順にして下さい。なお、文献の表記の順は次の通りです。

・著書の場合

著者姓、著者名前〔訳者名〕、発行年（同一著者の同一年発行の著書を複数挙げている場合には a, b で区別する）、『著書名』、出版社名。

・所収論文の場合

著者姓、著者名前〔訳者名〕、発行年（同一著者の同一年発行の論文を複数挙げている場合には a, b で区別する）、『論文名』、編者もしくは共著書名『書名』所収、所収論文の頁、出版社名。

・雑誌論文の場合

著者姓、著者の名前〔訳者名〕、発行年（同一著者の同一年発行の論文を複数挙げている場合には a, b で区別する）、『論文名』、『雑誌名』、所収論文の頁、出版社名。

〔引用文献リストの例〕

青山康一

一九九三 a 『イギリス議会史』 山本出版。

『史苑』投稿規定

- 一九九三 b 「両大戦間の対仏政策」『英国史研究』五卷
一号、三—一八頁。

上原 信

- 一九九一 「近世中国の植樹政策」『歴史学』八二卷二号、
三三—四五頁。

小山高士

- 一九八九 「リヨンの反乱」井上幸三編『フランス革命』
所収、一—一九頁。一玄社。

マイナー、ゲルダ〔奥山暁子訳〕

- 一九九五 『男性支配の起源』三和書房。

Meiner, Gerda

- 1990 *The Creation of Patriarchy*, Oxford, Oxford
Univ. Press.

Sen, Sumit

- 1987 “Banglar Vrata” (in Bengali), *Amrita* 11,
pp.24-56.

Uehara, Hiromi

- 1999 “Peasant society in the Phillipines”. in
B. C. Ross & D.E.Farm (eds.), *Rural
Development in Asia*, pp.45-78, Manila,
Sita Publications.